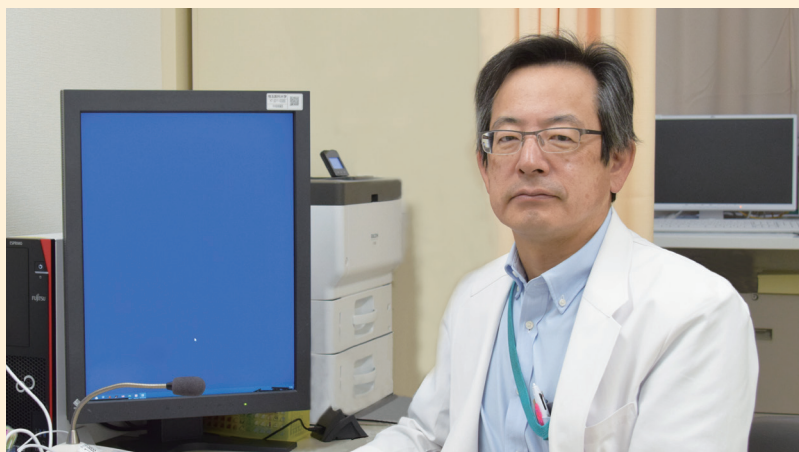


埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



ごあいさつ

病院長 篠塚 望

新年あけましておめでとうございます。日頃より大変お世話になっており、ここに厚く御礼申し上げます。埼玉医科大学病院は昨年8月に新体制となり、あらたに副院長5名、院長補佐8名の先生方に就任頂き、各々の担当分野を明確にし、管理運営にあたることとなりました。私自身、これまでの経験を基に気持ちを新たにリスタートすることとなった次第です。

当院は特定機能病院としての使命を果たすことは勿論ですが、一番の役割は地域に根差した医療機関となり、連携施設の先生方の期待に応えることであると認識しています。そのためには先生方のご意見をいかに真摯に受け止め、改善していくことが重要と考えています。緊急症例や救急車の受け入れのみならず、患者本位の医療を実践できるよう、職員の意識をさらに高めて困難な時期を乗り越える覚悟であります。

まだまだ至らぬ点が多くご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、職員一同気持ちも新たに努力していきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

No. 10

2021. 新年号

Contents

年頭のごあいさつ	2
ご紹介	3
□ コモフレイル外来	
診療科のご紹介	4
耳鼻咽喉科	
放射線腫瘍科・放射線科	
新任医師のご紹介	5
血液内科	
総合診療内科	
病院長からのエール	
看護部から	6
カルナ（インターネット予約システム）のご利用	6
提携医療機関から	
たわらクリニック	7
熊谷総合病院	7

謹賀新年 本年もよろしく申し上げます。

新体制にて地域の連携施設の期待に応える病院を目指します。本年も宜しく申し上げます。

病院長 篠塚 望

地域の皆さんに信頼される医療を提供できますよう、努めてまいります。本年もどうぞよろしく申し上げます。

副院長 岡田 浩一

2020年8月から診療情報管理と保険診療指導を担当しています。本年もよろしく申し上げます。

副院長 市岡 滋

いつも患者様をご紹介下さり誠にありがとうございます。今年さらには先生方と連携を深めて地域医療を支えていきたいと思っております。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

副院長 山元 敏正

当院では動線の分離を図り一般患者さんの安全は確保されています。安心してご紹介ください。

副院長 池園 哲郎

患者さんご家族の安心・安全を第一に考えて対応して参ります。本年もよろしく申し上げます。

副院長 原嶋 弥生

当科は、あらゆる出生前診断に対応できる施設です。また、無痛分娩の経験も豊富です。ご相談ください。

院長補佐 亀井 良政

診療サービスの向上と患者支援センターの充実を目標に努力致しますのでよろしくお願い致します。

院長補佐 中里 良彦

地域の皆様に安心して医療を受けていただくため感染症対策に努めます。本年もよろしくお願い致します。

院長補佐 仲村 秀俊

整形外科・脊椎外科では人間らしく動けるようお手伝いをしています。本年も宜しくお願い致します。

院長補佐 門野 夕峰

地域の患者さんのこころの問題を解決するため、本年も引き続き連携を密にして参りたいと思っております。

院長補佐 松尾 幸治

さまざまな職種のスタッフがチームとなり、安心して医療が受けられるようにサポートさせていただきます。

院長補佐 前田 卓哉

地域の皆様のお役に立てるように地域医療を真剣に考え努めて参ります。宜しくお願い致します。

院長補佐 廣岡 伸隆

患者満足度を意識した地域から頼られる質の高い総合診療の実践に日々邁進して参ります。

院長補佐 小林 威仁



ロコモフレイル外来のご紹介

当外来では急性 / 慢性、がん / 非がん、年齢を問わず、日常生活動作が低下した患者さんの「ロコモ」や「フレイル」を評価して、その予防を患者さんと一緒に考えて行きます。

「ロコモ」とは骨や関節、筋肉など運動器の衰えが原因で、歩行や立ち座りなどの日常生活に障害を来している状態のことを云います。ロコモが進行すると要介護や寝たきりになるリスクが高くなります。

「フレイル」とは体がストレスに弱くなっている状態のことを云います。フレイルが進行すると生活の質を落とすだけでなく、さまざまな合併症も引き起こす危険があります（図1）。

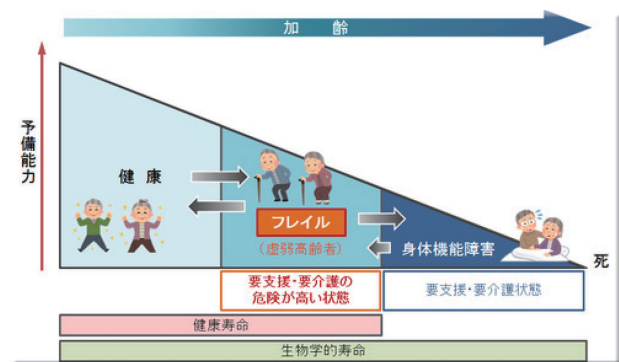


図1) フレイル概念図 <葛谷雅文 (2009) 日本老年医学会雑誌を参考に一部改変>

厚生省は2025年に65歳以上の高齢者人口が3,657万人（30.3%）、75歳以上の高齢者人口が2,179万人（18.1%）を超えると推計しており、もうすぐ日本は世界でも類をみない超高齢社会になります。そして、ロコモ・フレイルの高齢者が増加して、高齢者の医療保険給付が国の医療負担を圧迫するようになります（2025年問題）。

このような背景から埼玉医科大学病院では令和元年5月から「ロコモ・フレイル外来」を新設しました。

「ロコモ・フレイル外来」では2025年問題に備え、地域高齢者の「ロコモ」と「フレイル」を早期に同定し、地域高齢者の日常生活を支援して「ロコモ」と「フレイル」の予防を推進、地域高齢者の健康寿命を延伸して、個々の、そして地域の医療費削減を目指しています。

ロコモ・フレイル外来では、要介護になる原因として最も頻度の高い認知症を評価し、ポリファーマシー（6種以上の多剤併用）を低減、栄養状態を評

価してオーラル・フレイル（口腔機能低下）の診断と予防を考え、疼痛（関節炎など）の管理、地域の医療資源（デイサービス、デイケア、定期巡回随時訪問介護看護サービスなど）の有効利用を支援しています。

<開業医の先生方への医療連携メッセージ>

ロコモ・フレイル外来は、次のような所見を一つでも満たす高齢者を対象としています。随時対応しますので、お気軽にお問合せください。

＝ロコモ・フレイル外来受診基準＝

- ・痛いところがある
- ・体重が減少した
- ・だるさ、疲労感がある
- ・食べられない
- ・眠れない
- ・活動量が減った
- ・歩くのが遅くなった
- ・筋力が低下した
- ・呑み込みが悪い
- ・物忘れをする
- ・医療施設をまとめたい
- ・薬が多くて困っている
- ・健康不安がある
- ・健康相談がしたい

ロコモ・フレイル外来（東館2階）

岩瀬 哲（教授）

宮部 拓也（緩和ケア認定看護師）

☎：049-276-1766

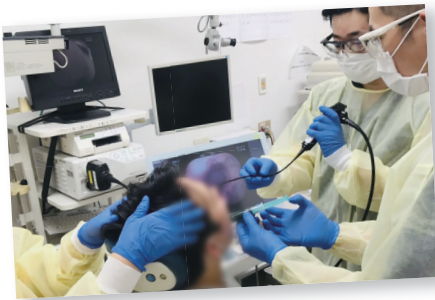


写真左 岩瀬 哲先生

● **耳鼻咽喉科 関根 達朗(セキネ タツロウ) / 客員教授 田山 二郎(タヤマ ニロウ)**

耳鼻咽喉科では新たに嚥下専門外来を設けました。日本は世界でも類をみない超高齢社会を迎え、嚥下障害やそれに伴う肺炎が増加し、対応が急務です。我々は、外来で簡易に行える内視鏡下嚥下機能検査(VE)などを施行し、迅速な嚥下機能評価を行っています。

嚥下障害に対する治療には手術治療もあります。誤嚥性肺炎を繰り返す重症例では、誤嚥を完全に防



止できる誤嚥防止術が有効です。誤嚥防止術では音声機能は失われますが、繰り返す誤嚥性肺炎で悩まれて

いる方、経口摂取を強く希望される方には有用です。口から物を食べたい、という気持ちは人間本来の欲求であり、これを願う患者さんは多いのです。また、新しい技術として嚥下機能を改善する手術もあります。手術により、失われた機能を補助することが可能です。

最近では、嚥下障害とフレイルやサルコペニアとの関連が注目されています。嚥下障害の診療は、複数の診療科や多職種での連携が重要です。当科では、リハビリテーション科、緩和医療科などの医師、言語聴覚士、看護師、栄養士など、診療科や職種の垣根を超えた診療を行っています。

嚥下にお悩みの患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご紹介下さい。検査をすることで次のステップが見えてきます。

診療部長のご挨拶

耳鼻咽喉科全般の手術治療を得意としております。アブミ骨、鼓室の手術、人工聴覚器、世界初の難聴・めまい診断CTP蛋白の活用、鼓膜の再生医療、アレルギーセンターとも連携しながら鼻・副鼻腔の最先端の治療、音声・嚥下外来の新設など、幅広い診療を行っております。コロナ禍の中でも安心・安全な医療をご提供します。

耳鼻咽喉科 池園 哲郎
外来☎：049-276-1296

診療科のご紹介

● **放射線科 教授 小澤 栄人(コザワ エイト)**

埼玉医科大学病院(以下、当院という)放射線科は、CT、MRI 検査といった画像検査・診断の適正な施行及び管理、また、各種画像検査に画像診断の報告書作成による迅速な診断への寄与を主な業務としています。当院では放射線診断専門医による画像診断レポート作成が速やかに行われ、ほぼ当日中に放射線科の報告書として院内に発信するように努力しています。現在関連施設とは連携システムであるインターネット予約システム(カルナ)で結ばれており、指定の予約枠を取得して頂くことにより、予約を取得し、画像のDVDでの提供および当日中

のレポート提供が可能となっています。もし、画像診断が必要な場合がありましたら、カルナシステムで申し込んでいただければと思います。

また、以上のようなレポート作成とは別に、カテーテル等を利用した検査および治療である(Interventional Radiology : IVR)も院内で担当しています。現在大学院生が3人おり画像を利用した研究も進めており、脳脊髄液漏出症や慢性腎障害の分野では新しいMRIの撮像も行っております。今後当院から様々な研究成果を発信できるよう努めて参りますので放射線科をよろしくご依頼申し上げます。



診療部長のご挨拶

当院放射線科は、CT、MR 画像の読影業務を主とし、各専門の放射線診断専門医が勤務しており、専門的なレポートが報告できるように医局員一同心がけています。放射線科には、外来がなく直接お会いし紹介状をお書きする機会はありませんが、カルナの報告書を通して地域医療の充実に協力していきたいと思っております。

放射線科 小澤 栄人
外来☎：049-276-1298

● **血液内科 教授 照井 康仁 (テルイ ヤスヒト)**

2020年9月1日付けで埼玉医科大学病院血液内科教授を拝命いたしました照井康仁と申します。

私は岩手県花巻市出身で、1987年3月に自治医科大学を卒業し、岩手県立中央病院にて2年間の多科ローテーション研修を行いました。その後はへき地医療のため岩手の山間部と沿岸部の公立病院に勤務しましたが、幸いにも自治医科大学大学院への進学の手をかり、血液学研究の研鑽を積んで参りました。大学院終了後は自治医科大学血液内科助手、講師を経て米国ハーバード大学医学校に2年7ヶ月間留学を致しました。帰国後は癌研究会附属病院化学療法科および癌化学療法センター臨床部（現在のがん研究会有明病院血液腫瘍科およびがん化学療法センター臨床部）に17年間勤務し、血液がん、特に悪

性リンパ腫や多発性骨髄腫の診断、治療に携わってきました。悪性リンパ腫や多発性骨髄腫は男女ともに増加していて、それと共に新薬の開発が物凄い速さで行われていますが、埼玉医科大学病院血液内科で多くの治験が遂行できるように務め、埼玉県での血液疾患診療のさらなる向上に努めたいと思います。どうぞご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



新任医師のご紹介

● **総合診療内科 教授 鈴木 朋子 (スズキ トモコ)**

2020年10月1日付で埼玉医科大学病院総合診療内科教授を拝命いたしました。埼玉医科大学病院での勤務は2回目で、2010年～2013年3月までは呼吸器内科でお世話になっておりました。1992年に山形大学を卒業し山形県立中央病院で初期研修を行った後、北里研究所東洋医学総合研究所を

経て当時の東北大学老年・呼吸器内科に入局、以後呼吸器内科・漢方内科診療に携わって参りました。二度の留学後埼玉医科大学病院での勤務を経て、新設された福島県立医科大学会津医療センター

の漢方医学講座の立ち上げに加わりました。その後は呼吸器内科と兼任し地域医療にも関わっております。前任地は会津若松市という高齢化率の高い地方都市で誤嚥性肺炎の多い土地柄。治療には肺炎だけでなく患者さんの日常生活を含めた包括的な診療が不可欠となります。思えば呼吸器内科を学び始めた東北大学の医局も誤嚥性肺炎を研究テーマとしており、まさに「へらに始まりへらに終わる」を実感したものです。一方の漢方医学も科横断的診療で、総合診療内科に相通ずるものがあります。高齢化が進む中、呼吸器・漢方診療といったこれまでの専門性を活かしつつ、総合診療内科の一員として尽力して参りたいと存じます。どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしく御願い申し上げます。



● **新任医師へ病院長からのエール**

当院の血液内科は中村教授以下の専門医は診療にあたっておりますが、昨年9月より照井先生をお迎えしました。照井先生は血液全般に渡り診療されていますが、なかでもがんの治療を専門とされています。これまでの幅広い経験を基に、この地域で連携施設の先生方と強く連携し、血液疾患の診断治療に貢献されるものと確信しています。9月に赴任以降、病棟や外来において先生に対する信頼は強まっており、今後当院での活躍を強く期待しています。どうぞよろしくお願い致します。

鈴木先生の当院での勤務は2回目になりますが、多くの施設で研鑽を積み、今回教授として赴任されました。専門の呼吸器内科領域はもとより、東洋医学にも精通していることから、当院では総合診療内科と同時に東洋医学も兼任されます。よって、当院呼吸器内科とよくコミュニケーションをとり、連携施設の先生や患者さんにわかりやすい体制を病院としても構築していきます。地域医療に多大な貢献をされるものと期待しています。

● 看護部から

埼玉医科大学病院入退院・患者支援室は、患者さんが安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活ができるよう、「入院前からの退院支援」を目標に活動して3年目を迎えました。

現在入院支援では、予定入院の患者さんに対して、入院前の外来から入院支援看護師が、患者情報の把握、入院中の治療や検査の説明、服薬中の薬の確認、退院困難な要因の有無の評価等を行い、安心して入院生活を受けられるよう入院病棟へ情報提供を行っています。入院前から、患者さんが抱える不安を知ること、入院直後より退院に向けた支援ができるようになりました。

退院支援では、少しずつではありますが、地域の連携機関や在宅療養支援担当の方々と、顔と顔で繋がる関係を作れるようになりました。退院前カンファレンスでは、自宅退院に向けて、ケアマネージャーさんや訪問看護師さん達と、患者さん・ご家族の希望に添えるよう忌憚のない意見交換も行っています。

また、在宅での看取りに関しても地域の訪問診療

所と協力することで、患者さんにご家族の願いを叶えるべく調整させていただく機会も増えてきました。

病気を抱えてもその人らしい生活ができるように病院から地域へ、継続した医療・介護を行うことができるよう、これからも多くの方と連携を強化して、患者さん・ご家族のための入退院支援を行ってまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

入退院・患者支援室



カルナ（インターネット予約システム）の利用

提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大学病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療連携を図ります。

提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶カルナシステムを利用されたい方は、申請届を提出する際に申し出てください。

申請届をインターネットよりダウンロード
<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/system.html>

プリントアウト

必要事項を記入

カルナ利用をご希望の方

郵送または FAX

当院より登録証を送付
 ※カルナ利用希望の方のみ別途書類を送付いたします。

新規カルナ登録医療機関 (R2.6 ~ R2.10)			
銀座まいにちクリニック	東京都中央区	院長	山本 悠太
しんがし駅西口歯科医院	川越市	理事長	高見 和城
アライクリニック	群馬県富岡市	理事長・院長	新井 哲

提携医療機関から

たわらクリニック

当院は鶴ヶ島市の藤金に2013年に開院しました。親しみやすく頼りになる地域の皆様の「良きかかりつけ医」を目指しています。生活習慣病などの日常的な疾患に加え、専門である消化器疾患の診療、内視鏡検査（胃・大腸カメラ）で癌の早期診断・治療に力を注ぎ、皆様の健康寿命を延ばすお手伝いをしていきます。

カルナシステムでは、クリニックでは出来ないCTやMRI検査などを簡単に予約ができ、患者さんに非常に好評です。また専門医の読影結果も添付頂き、大変助かっています。今後は外来診療予約も利用させて頂き、お互い顔の見れる、親密な病診連携をさせて頂きたいと思っております。

院長：俵 英之



医療機関情報

診療科目：内科・消化器内科・外科・肛門外科

診療時間：午前 9:00～午前 11:45

午後 3:00～午後 5:45

休診日：水曜日・日曜日・祝日

ホームページ：<https://tawara-clinic.jp>

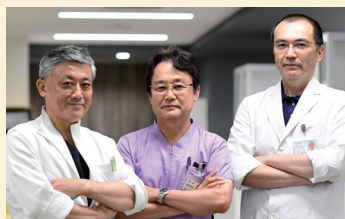


熊谷総合病院

当院は、1945年に開設された農業会病院（許可病床45床）から始まり、本年2020年に節目の75周年を迎えました。時を同じくこの9月、コロナ禍の中ではありましたが4年余りを費やした熊谷総合病院の再整備計画が無事に完了し、現在新しい建物にPET-CTとMEG（脳磁図計）、トモセラピーやFUS（収束超音波治療装置）などの最新機器を有した許可病床310床の総合病院として、少子高齢化の進む県北熊谷地域に精密な検診事業、疾病の早期発見と低侵襲治療を提供しております。

埼玉医科大学病院カルナシステムの利用により診察予約の取得日時が明確に示され、また、大学病院での初診受付手続きが不要となり、当院からご紹介するすべての患者さんの安心と満足につながっております。

中央：院長 中村 信一
右：副院長 北 順二
左：副院長 今野 慎



医療機関情報

診療科目：内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・外科・整形外科・脳神経外科・小児科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・形成外科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・消化器外科・腎臓内科・人工透析内科・脳神経内科

診療時間：午前 8:30～午前 11:30

休診日：日曜日・第2土曜日・第4土曜日・

国民の休日・12月29日～1月3日（年末年始休暇）

ホームページ：<https://www.kumasou.or.jp/>



埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター・中毒センター：049-276-1199
地域医療連携室（カルナ・FAX 紹介）：049-276-1876
番号案内：049-276-1111

医療福祉相談室（退院調整）：049-276-2119
セカンドオピニオン受付：049-276-1121



埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース（10号）

発行：埼玉医科大学病院
発行責任者：篠塚 望
編集：埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室
編集責任者：池園 哲郎・中里 良彦
電話：049-276-1876 地域医療連携室
住所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
発行日：2021年1月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。